

EXTENSION INHIBITOR OF DENDRITE OF MELANOCYTE AND COSMETIC CONTAINING THE SAME**Publication number:** JP2003081746**Publication date:** 2003-03-19**Inventor:** SAEKI YUKO; TADA AKIHIRO; KANAMARU AKIKO;
NISHIKAWA KAZUKO; SUZUKI SATOSHI; SAITO
YUKO**Applicant:** POLA CHEM IND INC**Classification:****- international:** A61K8/96; A61K8/00; A61K8/97; A61K36/18;
A61P17/00; A61Q19/02; A61K8/96; A61K8/00;
A61K36/18; A61P17/00; A61Q19/02; (IPC1-7):
A61K7/00; A61K35/78; A61P17/00**- European:****Application number:** JP20010275837 20010912**Priority number(s):** JP20010275837 20010912**Report a data error here****Abstract of JP2003081746**

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a preventing or ameliorating means effective for pigment anomaly accompanying inflammation and pigment anomaly such as freckle. **SOLUTION:** An excellent bleaching cosmetic for dealing with skin- melanization phenomena associated with a melanocyte and a macrophage is provided by making the cosmetic contain an essence of *Uncaria gambir* ROXBURGH belonging to the genus *Uncaria* of Rubiaceae, preferably the essence of leaves and sprigs, having excellent activities for inhibiting the extension of a dendrite of the melanocyte.

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-81746

(P2003-81746A)

(43) 公開日 平成15年3月19日 (2003.3.19)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	サーチコード [*] (参考)
A 6 1 K 7/00		A 6 1 K 7/00	K 4 C 0 8 3
	35/78		X 4 C 0 8 8
A 6 1 P 17/00		A 6 1 P 17/00	C
審査請求 未請求 請求項の数10 O L (全 7 頁)			

(21) 出願番号 特願2001-275837(P2001-275837)

(22) 出願日 平成13年9月12日 (2001.9.12)

(71) 出願人 000113470

ボーラ化成工業株式会社

静岡県静岡市弥生町6番48号

(72) 発明者 佐伯 夕子

神奈川県横浜市戸塚区柏尾町560 ボーラ

化成工業株式会社ボーラ戸塚研究所内

(72) 発明者 多田 明弘

神奈川県横浜市戸塚区柏尾町560 ボーラ

化成工業株式会社ボーラ戸塚研究所内

(72) 発明者 金丸 晶子

神奈川県横浜市戸塚区柏尾町560 ボーラ

化成工業株式会社ボーラ戸塚研究所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 メラノサイトのデンドライトの伸長抑制剤及びそれを含有する化粧品

(57) 【要約】

【課題】炎症を伴った色素異常やソバカスなどの色素異常に対して有効な予防或いは改善手段を提供することを課題とする。

【解決手段】メラノサイトのデンドライトの伸長の抑制作用を有するのに優れたアカネ科 (Rubiaceae) のカギカズラ属 (Uncaria)、ガンビールノキ (Uncaria gambir RONBURGH) のエッセンス、好ましくは葉及び若枝のエッセンスを化粧品などの皮膚外用剤へ含有させることにより、メラノサイトとマクロファージが関与する皮膚黒化現象に対応の優れた美白化粧品が提供できる。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 アカネ科 (Rubiaceae) のカギカズラ属植物 (Uncaria) のエッセンスからなる、メラノサイトの伸長抑制剤。

【請求項2】 カギカズラ属植物 (Uncaria) がガンビールノキ (Uncaria gambir ROXBURGH) であることを特徴とする、請求項1に記載のメラノサイトの伸長抑制剤。

【請求項3】 請求項1に記載のエッセンスが葉及び若枝の熱水抽出による乾燥水製エキスであることを特徴とする、請求項1又は2に記載のメラノサイトのデンドライトの伸長抑制剤。

【請求項4】 請求項3に記載の葉及び若枝の乾燥水製エキスを極性溶媒により抽出したエッセンスからなることを特徴とする、請求項1〜3に記載のメラノサイトのデンドライトの伸長抑制剤。

【請求項5】 デンドライトの伸長抑制が、マクロファージ由来のデンドライト伸長促進因子の抑制作用に起因することを特徴とする、請求項1〜4の何れか一項に記載のメラノサイトの伸長抑制剤。

【請求項6】 請求項1〜5の何れか一項に記載のメラノサイトの伸長抑制剤を含有することを特徴とする、メラノサイトとマクロファージが関与する皮膚現象に対する皮膚外用剤。

【請求項7】 化粧品であることを特徴とする、請求項6に記載のメラノサイトとマクロファージが関与する皮膚現象に対する皮膚外用剤。

【請求項8】 メラノサイトとマクロファージが関与する皮膚現象が、光による炎症を伴った、皮膚の黒化現象或いはソバカスである。請求項6又は7に記載のメラノサイトとマクロファージが関与する皮膚現象に対する皮膚外用剤。

【請求項9】 アカネ科 (Rubiaceae) のカギカズラ属植物 (Uncaria) のエッセンスを含有する、美白用の化粧品。

【請求項10】 アカネ科 (Rubiaceae) のカギカズラ属植物 (Uncaria) のエッセンスが、葉及び若枝の極性溶媒抽出物であることを特徴とする、請求項9に記載の美白用の化粧品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、メラノサイトのデンドライト伸長抑制剤及び化粧品などの皮膚外用剤に関し、更に詳細には、美白用の化粧品として好適な、メラノサイトのデンドライト伸長抑制剤により、メラノサイトとマクロファージの相互作用を抑制することによる、メラノサイトとマクロファージが関与する皮膚現象に対する皮膚外用剤に関する。

【0002】

【従来の技術】 メラノサイトは動物において、色素に係

わる生命現象の主役となっていることは既に知られていることであるが、かかる色素であるメラニンがメラノサイトで産生され、どのような経路で表皮細胞に移動していくかについては、未だ詳細には知られておらず、かかるメラニン顆粒の移動には、マクロファージが関与している場合が少なくないとのみが知られているにすぎない。かかるマクロファージの関与については、メラノサイトのデンドライトの伸長因子 (DEF) を産生することにより為されていることが指摘されているが、この様な伸長因子の働きを抑制する試みや、抑制することによりメラノサイトのデンドライトの伸長を抑制すること、該デンドライトの伸長抑制により、メラニン顆粒の移動を抑制し、皮膚が黒化するのを防ぐ試みは全く為されていない。更に、アカネ科 (Rubiaceae) のカギカズラ属植物 (Uncaria)、例えばガンビールノキ (Uncaria gambir ROXBURGH) のエッセンス、好ましくは葉や若枝のエッセンスにこの様なメラノサイトの伸長抑制作用があることも全く知られていない。

【0003】 他方、メラノサイトによって産生されるメラニン顆粒の異常によって生じる色素異常の解決は、美しい白い肌を具現化するための人類永年の解決課題であり、この為、種々の努力が為され、多くの成果が得られてきており、そのメカニズムについても様々なものが得られているが、メラノサイトのデンドライトの伸長抑制に着目したものはなく、この様なメカニズムにより、光の関与する色素異常であって、炎症を伴う色素異常の予防や改善などの対応に有用であることは全く知られていない。又、炎症を伴った色素異常やソバカスなどの色素異常に対して、従来良く知られているアスコルビン酸などのメラニン生成阻害剤の効果が今ひとつであり、この様な色素異常の予防或いは改善手段の開発が望まれていた。

【0004】 更に、アカネ科 (Rubiaceae) のカギカズラ属植物 (Uncaria)、例えばガンビールノキ (Uncaria gambir ROXBURGH) のエッセンス (ガンビールノキの葉及び若枝に水を加えて数時間煮詰めた後、後に冷却して固くさせコロ形に調製したものでキューブ・ガンビールと言い、不規則塊状のものをアセンヤク＝阿仙薬＝ガンビールと称する) は、カテキン類30〜40%、 α -カカロイド、ガンビルフルオレセイン、樹脂類、粘液、アルカロイド、ガンビルタンニン、デヒドロガンビルタンニン、オクソガンビルタンニン、ガンビレン、アンカリンA、B、ビフロボノイド (カルコンフラバン ダイマー)、ガンプリン等を含有する。

【0005】 アセンヤクの薬理作用として、アセンヤクの5〜20%水溶液を家兎に経口投与すると、十二指腸及び小腸の蠕動を抑制し、盲腸の逆蠕動を促進して下消作用を示すが、大腸の運動にはほとんど作用しない。即

ち収斂性止瀉薬として用いる。その他に、瀉痢、便血にも用いられ、日本では、口腔清涼剤（仁丹など）の原料として大量に用いられている。しかしながら、このものがメラノサイトのデンドライト伸長を抑制する作用を有していることは全く知られておらず、従って、このものを含有する化粧品などの皮膚外用剤がメラノサイトのデンドライト伸長を抑制し、以て、色素異常、取り分け、光が関与し、炎症を伴って起こる色素異常の予防と改善に有用であることは全く知られていないことであった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、この様な状況下為されたものであり、皮膚の美白に好適な、取り分け、炎症を伴った色素異常やソバカスなどの色素異常に対して有効な予防或いは改善手段として好適な皮膚外用剤を提供することを課題とする。

【0007】

【課題の解決手段】この様な状況に鑑みて、本発明者らは、炎症を伴った色素異常やソバカスなどの色素異常に対して有効な予防或いは改善手段を求めて、鋭意研究を重ねた結果、アカネ科 (Rubiaceae) のカギカズラ属植物 (Uncaria)、例えばガンビールノキ (Uncaria gambir ROXBURGH) のエッセンスは、に優れたメラノサイトのデンドライトの伸長抑制作用を見出し、かかる作用を有する物質を皮膚外用剤に含有させることにより、この様な皮膚外用剤により、炎症を伴った色素異常やソバカスなどの色素異常の予防・改善に有用であることを見出し、発明を完成させるに至った。即ち、本発明は次に示す技術に関するものである。

(1) アカネ科 (Rubiaceae) のカギカズラ属植物 (Uncaria) のエッセンスからなる、メラノサイトの伸長抑制剤。

(2) カギカズラ属植物 (Uncaria) がガンビールノキ (Uncaria gambir ROXBURGH) であることを特徴とする、(1)に記載のメラノサイトの伸長抑制剤。

(3) (1)に記載のエッセンスが葉及び若枝の熱水抽出による乾燥水製エキスであることを特徴とする、

(1)又は(2)に記載のメラノサイトのデンドライトの伸長抑制剤。

(4) (3)に記載の葉及び若枝の乾燥水製エキスを極性溶媒により抽出したエッセンスからなることを特徴とする、(1)～(3)のいずれかに記載のメラノサイトのデンドライトの伸長抑制剤。

(5) デンドライトの伸長抑制剤が、マクロファージ由来のデンドライト伸長促進因子の抑制作用に起因することと特徴とする、(1)～(4)の何れかに記載のメラノサイトの伸長抑制剤。

(6) (1)～(5)の何れかに記載のメラノサイトの伸長抑制剤を含有することを特徴とする、メラノサイトとマクロファージが関与する皮膚現象対応用の皮膚外用剤。

(7) 化粧品であることを特徴とする、(6)に記載のメラノサイトとマクロファージが関与する皮膚現象対応用の皮膚外用剤。

(8) メラノサイトとマクロファージが関与する皮膚現象が、光による炎症を伴った、皮膚の黒化現象或いはソバカスである、(6)又は(7)に記載のメラノサイトとマクロファージが関与する皮膚現象対応用の皮膚外用剤。

(9) アカネ科 (Rubiaceae) のカギカズラ属植物 (Uncaria) のエッセンスを含有する、美白用の化粧品。

(10) アカネ科 (Rubiaceae) のカギカズラ属植物 (Uncaria) のエッセンスが、葉及び若枝の極性溶媒抽出物であることを特徴とする、(9)に記載の美白用の化粧品。

以下、本発明について、実施の形態を中心に詳細に説明を加える。

【0008】

【発明の実施の形態】(1)本発明のメラノサイトのデンドライトの伸長抑制剤

本発明のメラノサイトのデンドライトの伸長抑制剤は、アカネ科 (Rubiaceae) のカギカズラ属 (Uncaria) 植物のエッセンスからなる。カギカズラ属 (Uncaria) 植物には、ガンビールノキ (Uncaria gambir ROXBURGH)、カギカズラ (Uncaria rhynchophylla Miq.)、華鈎藤や (Uncaria chinensis (Oliv.) Havil.)、大葉鈎藤 (Uncaria macrophylla Wall.) 等があり、本発明のデンドライトの伸長を抑制する物質は何れにも含まれている。従って、本発明のエッセンスとしてはこれらの植物の何れもが使用できる。しかし、中でもメラノサイトのデンドライトの伸長抑制剤のエキスを抽出するには、ガンビールノキ (Uncaria gambir ROXBURGH) を用いるのが好ましい。これは、メラノサイトのデンドライトの伸長抑制物質が多く含まれているからである。ここで、エッセンスとは、かかる植物の植物体それ自身、植物体を乾燥或いは細切、粉砕など加工した加工物、植物体乃至はその加工物を溶媒で抽出した抽出物、抽出物の溶媒を除去した、溶媒除去物、抽出物乃至はその溶媒除去物をカラムクロマトグラフィーや液液抽出で精製した精製分画物などの総称を意味する。尚、エッセンスは、植物体の全草から抽出することができる。これらの内、本発明のメラノサイトのデンドライトの伸長抑制剤としては、カギカズラ属 (Uncaria) 植物の場合は、葉及び若枝の溶媒抽出物乃至はその溶媒除去物が好ましく例示でき、かかる溶媒としては、極性溶媒が特に好ましく例示できる。この様な極性溶媒としては、例えば、水、エタノール、メタノール、1、3-ブタンジオール、プロピレングリコールなどのアルコール類、酢酸エチルや酢酸メチルなどのエステル類、アセトンやメチルエチルケトンなどのケトン類、クロホルムや塩化メチレン等のハロゲン化炭化水素類、アセトニトリル等のニトリル類、ジエチル

エーテルやテトラヒドフランなどのエーテル類から選ばれる1種乃至は2種以上が好ましい例示である。これらの内、特に好ましいものは、水乃至はアルコールである。この様な抽出物を作成するには、植物体乃至はその加工物に1〜10倍量の溶媒を加え、室温であれば数日、沸点付近の温度であれば数時間浸漬すればよい。しかる後に、不溶物を溶過などで除去し、必要に応じて減圧濃縮や凍結乾燥により溶媒除去することが出来る。ガンビールノキ(Uncaria gambir ROXBURGH)の葉及び若枝の場合、各部分を水及び熱水抽出して乾燥後に得られた乾燥水製エキスをガンビールノキ(Uncaria gambir ROXBURGH)50%エタノール抽出後、溶過紙、減圧濃縮として特に好ましい。それは、葉及び若枝の部分がメラノサイトのデンドライドの伸長抑制成分が多く含まれており、特に好ましいからである。かくして得られた、本発明のメラノサイトのデンドライトの伸長抑制剤である、アカネ科(Rubiaceae)のカギカズラ属(Uncaria)、ガンビールノキ(Uncaria gambir ROXBURGH)の葉及び若枝のエッセンスは、メラノサイトがデンドライトを伸長するのを抑制する作用に優れ、以て、メラノサイトより皮膚組織へメラニン顆粒が移動するのを抑制し、この様なメラニン顆粒の移動をメカニズムとする、光照射時に生じる、炎症を伴った黒化やソバカスなどの色素異常を予防或いは改善する作用を有する。この様な作用は、マクロファージが放出するメラノサイトのデンドライトの伸長因子がメラノサイトに働きかけるのを阻害することを機序としていると考えられる。勿論、色素異常が、メラニン顆粒の産生にあたってこの様なルートをとることから、本発明のメラノサイトのデンドライト伸長抑制剤は、光照射による炎症を伴った黒化やソバカス以外の色素異常も抑制するが、この様な色素異常は他の手段でも予防や改善が可能であるため、本発明の効果の特徴は前記の光照射時に生じる、炎症を伴った黒化やソバカスなどの色素異常を予防或いは改善する作用と言える。又、この様なエッセンスにはチロシナーゼ活性阻害やメラニン産生阻害作用を有する物質も含まれているため、この様な作用を目的として美白用の化粧料に含有させることも出来る。この様な作用は、前記本発明のデンドライト伸長抑制作用と相乗的或いは相加的に働くため、これらエッセンスを化粧料に含有させて、美白用の化粧料とすることも本発明の技術的範囲に属する。

【0009】(2)本発明のメラノサイトとマクロファージが関与する皮膚現象対応用の皮膚外用剤
本発明のメラノサイトのデンドライト伸長抑制剤は、マクロファージが放出するメラノサイトのデンドライトの伸長因子がメラノサイトに働きかけるのを阻害することを機序としているので、メラノサイトとマクロファージとが協調的に働く生命現象を抑制することが出来る。この様なメラノサイトのデンドライト伸長抑制剤を、皮膚外

用剤に含有させることにより、メラノサイトとマクロファージが関与する皮膚現象へ対応する事が出来る。即ち、本発明の皮膚外用剤は、メラノサイトとマクロファージが関与する皮膚現象対応用であって、本発明のメラノサイトのデンドライト伸長抑制剤を含有することを特徴とする。ここで、本発明で言う皮膚外用剤とは、皮膚に外用で適用される組成物の総称であって、貼付剤を含む皮膚外用医薬や洗剤剤を含む化粧料が好ましい例示であり、これらの中では、化粧料であることが特に好ましい。これは、本発明のメラノサイトのデンドライト伸長抑制剤の安全性が高く、作用が穏やかであるためである。メラノサイトとマクロファージが関与する皮膚現象としては、特に好ましくは前述の光照射による炎症を伴った黒化やソバカスなどの色素異常がまず一番重要な課題として挙げられるが、その他炎症反応なども含まれる。本発明のメラノサイトとマクロファージが関与する皮膚現象対応用の皮膚外用剤に於ける、メラノサイトのデンドライト伸長抑制剤の好ましい含有量は、皮膚外用剤全量に対して、0.001重量%〜10重量%であり、更に好ましくは0.01重量%〜5重量%である。これは、少なすぎるとデンドライトの伸長抑制作用が発揮されない場合があり、多すぎても効果が頭打ちになり他の処方成分の自由度を損なうことがあるからである。

【0010】本発明のメラノサイトとマクロファージが関与する皮膚現象対応用の皮膚外用剤は、抗炎症剤として知られる、プレドニゾン、ヒドロコルチゾン、デキサメタゾン、インドメタシン、ジクロフェナクナトリウム等を配合させれば相乗効果により日光による炎症を伴う黒化症に有意義である。また、上記必須成分以外に、通常化粧料や皮膚外用医薬で使用される任意の成分を含有することが出来る。かかる任意成分としては、例えば、スクワラン、ワセリン、マイクロクリスタリンワックス等の炭化水素類、ホホバ油、カルナウバワックス、オレイン酸オクチルデシル等のエステル類、オリーブ油、牛脂、椰子油等のトリグリセリド類、ステアリン酸、オレイン酸、リチルリン酸等の脂肪酸、オレイルアルコール、ステアリルアルコール、オクチルデカノール等の高級アルコール、スルホホク酸エステルやポリオキシエチレンアルコール硫酸ナトリウム等のアニオン界面活性剤類、アルキルベタイン塩等の両性界面活性剤類、ジアルキルアンモニウム塩等のカチオン界面活性剤類、ソルビタン脂肪酸エステル、脂肪酸モノグリセリド、これらのポリオキシエチレン付加物、ポリオキシエチレンアルコール、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル等の非イオン界面活性剤類、ポリエチレングリコール、グリセリン、1,3-ブタンジオール等の多価アルコール類、増粘・ゲル化剤、酸化防止剤、紫外線吸収剤、色剤、防腐剤、粉体等を含有することが出来る。勿論、従来のメラニン産生抑制剤である、アスコルビン酸型やアルブチンなどのハイドロキノン類を含有す

ることも相乗的な効果を発揮する場合があり、有利である。

【0011】

【実施例】以下に実施例を挙げて更に詳細に本発明について説明を加えるが、本発明がこれら実施例にのみ、限定を受けないことは言うまでもない。

【0012】＜実施例1＞アカネ科のガンビルノキの葉のエッセンスは、葉500gを水に5Lで1週間、室温で抽出して得られた液を更に、5Lの50%エタノールを加え、攪拌しながら2時間、90℃で加熱し、室温まで冷却した後、濾過して不溶物を取り除き、更に減圧濃縮をして、その後、凍結乾燥した。そして、本発明のメラノサイトのデンドライト伸長抑制剤であるガンビルノキのエッセンス1（アセンヤクエキス1）を得た。

【0013】＜実施例2＞アカネ科のガンビルノキの若枝のエッセンスは、若枝500gを水に5Lで1週間、室温で抽出して得られた液を更に、5Lの50%エタノールを加え、攪拌しながら2時間、90℃で加熱し、室温まで冷却した後、濾過して不溶物を取り除き、更に減圧濃縮をして、その後、凍結乾燥した。そして、本発明のメラノサイトのデンドライト伸長抑制剤であるスイカズラのエッセンス2（アセンヤクエキス2）を得た。

【0014】＜実施例3＞上記実施例1、2のメラノサイトのデンドライト伸長抑制剤を用いて、デンドライト伸長抑制作用を調べた。即ち、予め常法に従い、マウス腹腔より、マクロファージを回収し、10%FBS加イーグルの最少培地で希釈し、 2×10^6 セル/μlの濃度のマクロファージ液を調製しておいた。このものを90μlずつ35mmシャーレに分注し、これに0.05mW/cm²で20分間の紫外線照射を行った。これらのメラノサイトのデンドライト伸長抑制剤であるアセンヤクエキス1及び2を乾燥重量%で0.005%となるようDMFに溶かして加え37℃で1晩培養した。

又、他方マウスの尾を切り、尾の表皮を細かく刻みシャーレに入れ、0.5%トリプシンにて37℃で一晩処理し、ピンセットを用いて、表皮と真皮に分離し、表皮のみを回収し、0.5%トリプシンにて37℃で20分間

実施例1のアセンヤクエキス1

重量部

1. 3ブタンジオール

0 重量部

グリセリン

0 重量部

クエン酸ナトリウム

重量部

メチルパラベン

重量部

エタノール

重量部

処理し、フィルター濾過でメラノサイトのみを濾液として集めた。このメラノサイトを含む濾液を、イーグルの最少培地に10%FBS、10-4Mの1BMX及び10ng/mlのTPAを加えた培地で、37℃、48時間培養した。これを同培地で懸濁させ、96穴ウェルに1000セル/ウェルずつ分注し、37℃で一晩培養した。メラノサイトの培地を捨て、PBSで3回洗浄した後、10%FBS加イーグルの最少培地35μlに置換した。これに前記検体を含むマクロファージの培養上清35μlずつ添加し、37℃で二晩培養し、光学顕微鏡下写真撮影を行い、この写真よりデンドライトの長さを測定した。結果を表1に示す。これより、本発明のメラノサイトのデンドライト伸長抑制剤であるアセンヤクエキス1及び2によるデンドライト伸長の抑制作用に優れることが分かる。

(検体)

1) UV照射+メラノサイトのデンドライト伸長抑制剤であるアセンヤクエキス1及び2のDMF溶液(0.005%)

2) UV照射のみ(ポジティブコントロール)

3) UV非照射のみ(ネガティブコントロール)

【0015】

【表1】

品名	デンドライトの長さ(μm)
アセンヤクエキス1 0.005%	58.9304
アセンヤクエキス2 0.005%	54.0742
ポジティブコントロール	114.1
ネガティブコントロール	98.992

【0016】＜実施例4＞以下に示す処方で化粧水を作成した。即ち、処方成分を室温で攪拌可溶化して化粧水を得た。この化粧水について、シミ、そばかすに悩むバネー1群3名を用いて、1ヶ月間、朝晩1日2回使用してもらいそのシミ、そばかすの予防及び改善効果を評価してもらった。評価基準は、評価点2:著しい改善、評価点1:明らかな改善、評価点0.5:わずかな改善、評価点0:改善なしの基準である。平均評価点は0.81であった。本発明のメラノサイトのデンドライトの伸長抑制効果のあるアセンヤクエキス1を含有する化粧水は、シミ、そばかすの改善に効果のあることが認められた。

1. 0

5.

3

0. 1

0. 2

8

水

7 重量部

【0017】＜実施例6＞以下に示す処方で作成した。即ち、処方成分を室温で攪拌可溶化して化粧水を得た。この化粧水について、シミ、そばかすに悩むパネラー1群3名を用いて、1ヶ月間、朝晩1日2回使用してもらいそのシミ、そばかすの予防及び改善効果を評価してもらった。評価基準は、評点2：著しい改善、評点1：

実施例2のアセンヤクエキス2

重量部

1. 3ブタンジオール

5 重量部

グリセリン

3 重量部

クエン酸ナトリウム

0.1 重量部

メチルパラベン

0.2 重量部

エタノール

8 重量部

水

82.7 重量部

【0018】＜実施例7＞下記に示す処方に従って、皮膚外用医薬組成物を作成した。即ち、処方成分を攪拌分散して、皮膚外用剤を得た。このものは光による炎症を

実施例1のアセンヤクエキス1

量部

ブレドニゾロン

1 重量部

ワセリン

85 重量部

【0019】＜実施例8＞以下に示す処方に従ってクリームを作製した。即ち、イ、ロ、ハをそれぞれ80℃に加熱溶解して、イに口を徐々に加え、更にハを加え乳化イ)

スクワラン

10 重量部

セタノール

3 重量部

ソルビタンセスキステアレート

重量部

ポリオキシエチレン(20)ベヘニルエーテル

重量部

ビタミンA酸

1 重量部

ロ)

1. 3ブタンジオール

5 重量部

実施例2のアセンヤクエキス2

重量部

82.

明らかな改善、評点0.5：わずかな改善、評点0：改善なしの基準である。平均評点は0.86であった。本発明のメラノサイトのデンドライドの伸長抑制効果のあるアセンヤクエキス2を含有する化粧水は、シミ、そばかすの改善に効果のあることが認められた。

1

伴った、光による皮膚の黒化現象或いはソバカスに対して著効を示した。

0.5重

した後、ホモミキサーにより乳化粒子を均一化し、冷却してクリームを得た。このクリームは、炎症を伴うそばかす等の予防改善に優れた効果があった。

2

2

1

カルボキシビニルポリマー 0.

3 重量部

水

40 重量部

ハ)

水

37.3 重量部

水酸化カリウム

0.2 重量部

【0020】＜実施例9＞下記に示す処方に従って、皮膚外用医薬組成物を作成した。即ち、処方成分を攪拌分散して、皮膚外用剤を得た。このものは光による炎症を実施例1のアセンヤクエキス1

伴った、光による皮膚の黒化現象或いはソバカスに対して著効を示した。

. 5 重量部

0

デキサメタゾン

1 重量部

ワセリン

85 重量部

【0021】

【発明の効果】本発明によれば、炎症を伴った色素異常

やソバカスなどの色素異常に対して有効な予防或いは改善手段を提供することができる。

フロントページの続き

(72)発明者 西川 和子
 神奈川県横浜市戸塚区柏尾町560 ボーラ
 化成工業株式会社ボーラ戸塚研究所内
 (72)発明者 鈴木 聡
 神奈川県横浜市戸塚区柏尾町560 ボーラ
 化成工業株式会社ボーラ戸塚研究所内
 (72)発明者 斉藤 優子
 神奈川県横浜市戸塚区柏尾町560 ボーラ
 化成工業株式会社ボーラ戸塚研究所内

Fターム(参考) 4C083 A111 A112 A032 A012
 AC022 AC072 AC122 AC182
 AC302 AC442 AC482 AD092
 AD492 AD622 C02 EE16
 FF01
 4C088 AB14 AC05 AC06 BA09 BA10
 CA05 CA06 MA03 NA14 ZA89
 ZC02